

発行 コルチャック・フォーラム

コルチャック通信

No. 17 2015/10/26

No. 16 から一年半も間が開いてしまいましたが、no. 17 号を、No. 15、No. 16 と 3 号続きで、石川の編集でお届けします。通信は、2008 年に No. 1 を出して以来、8 年目に突入しています。

1. 正木健雄先生、ご逝去

2008 年にコルチャック先生の足跡を訪ねて、今日のコルチャック協会日本支部を立ち上げる時の中核になったメンバーでポーランドを訪れた際にご一緒しました正木健雄先生が、20015 年 7 月 19 日、享年 85 歳でご逝去されました。先生は和歌山県出身、東京大学教育学部体育学科を 1953 年にご卒業になり、子どもの身体とこころを巡って数多くの著述を重ねて来られました。日本体育大学大学院名誉教授でいらっしゃいました。ご冥福をお祈りします。

2. カナダ・コルチャック協会が、コルチャックについての連続公演を 2015 年 9 月からスタート。

ブリティッシュ・コロンビア大学で、コルチャックの「ひとは子どもをどう愛するのか」をテーマにして、毎月 1 回の特別講義が 2016 年 4 月まで開催されます。内容は、子どもの権利、子どもの声に耳を傾けること、コルチャックの遺産を継承といった馴染みの表題がラインナップされていますが、そのほかに「原住民の子どもの人権」といったその土地独自の問題も含まれ、興味深い内容になっています。

<http://jklectures.educ.ubc.ca/lecture-sessions/>

3. 日本教育学会・ラウンドテーブル

隔年参加で日本教育学会で、コルチャックにつ

いてのラウンドテーブルを開催していますが、今年は第 12 回目になると思いますが、今回は初めてコルチャックの児童文学作品をテーマに取り上げました。今回の報告者は女性お二人、当初は大澤さんも参加予定でしたが、結局ご都合がつかず、報告者はお二人になりました。それぞれの報告タイトルをご紹介します。

小田倉泉（埼玉大学） 「『もう一度子どもになれば』(1925)に描かれた子ども時代とその世界」

柴田千賀子（桜の聖母短期大学） 「『孤島の王様マチウシ』からコルチャックの子ども観形成の軌跡をたどる」の 2 題でした。なお『孤島の王様マチウシ』は、日本語訳はありません。柴田さんはフランス語訳で読まれたとのこと。ドイツ語訳もあります。

以下、8. までは藤井さんからの情報になります。

4. IKA のドイツでの総会について

国際コルチャック協会は、今年、ミュンヘンで 11 月 21 日開催予定。出席者を募集中です。

こちらにドイツのコルチャック協会関係の Facebook があります。この Facebook の登録名は、コルチャック協会ではなく、コルチャックアカデミーになっています。どういう組織担っているのか、詳細は分かりません。

<https://www.facebook.com/Europaeische.Janusz.Korzak.Akademie.EJKA>

5. ポーランド映画祭

今年も日本で開催の準備が進められております。今年は、11/14-11/20 まで新宿の角川シネマ新宿で開催されます。

今回は、世界の名門映画学校の中に数えられるウッチ映画大学の出身者たちの作品、ワルシャワ蜂起をテーマにした作品、2 本、いずれも最近の新作です。こちらが公式サイトです。

<http://www.polandfilmfes.com/>

6. アウシュヴィッツの記憶

アウシュヴィッツ強制収容所解放から 70 年、ホロコーストの "記憶" を "記録" したドキュ

メンタリ(クロード・ランズマンの決定版)
SHOAH ショアが 10 月 7 日、DVD, BD 発売
へ。

また、ランズマン監督の傑作『ソビブル 1943
年 10 月 14 日午後 4 時』、『不正義の果て』の
2 作も同時発売されます。戦後 70 年を迎えた
今年、全人類が共有すべき世紀の映像遺産に注
目。関連サイトは、こちらです。

<http://mermaidfilms.co.jp/70/>

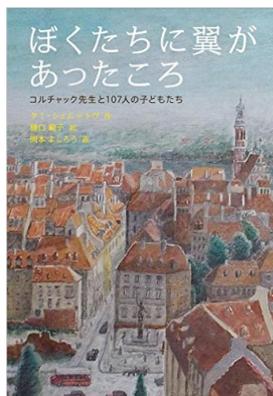
『ソビブル 1943 年 10 月 14 日午後 4 時』は、
ソビブルもユダヤ人強制収容所だったところで
す。こちらにもドキュメンタリでユダヤ人 400 人
の武装蜂起、逃亡計画があったところで、生存
者 100 人の内の 1 人がその記憶を語るというも
のです。

『不正義の果て』は、ナチスのプロパガンダ映
像や撮影監督ウィリアム・リュプチャンスキー、
キャロリーヌ・シャンブティエによる映像など
を使用し、ナチス親衛隊アドルフ・アイヒマン
の知られざる性格面を白日の下にさらしたドキ
ュメンタリ作品です。いずれも今回国内では初
めての上映になります。

7. コルチャック先生その施設での子ども たちの生活を生々しく物語に

コルチャック先生の孤児施設を生々しく描き出
した物語『ぼくたちに翼のあったころ』が福音
館書店から発行されました。タミ・シェブ=ト
ヴは、イスラエル生まれの児童文学作家で、
1969 年生まれ。これは創作です。

著者にはもうひとつ邦訳されたものがあり、『父
さんの手紙はぜんぶおぼえた』（岩波書店
2011 年）という、家族と離れ離れになり、オラ
ンダの田舎の医者之家に預けられたユダヤ人少
女リーネケを主人公とした作品です。食料不足
や病気の恐怖、身元を明かさぬまま仲良くなっ
た友だち、そして危険をおかしても守ってくれ
た善意の人たち。奇跡的に保管されていた父親
からの愛情あふれる絵入り手紙（フルカラー）
などが、彼女の戦争の記憶を彩ります。



8. 「原爆の図」米国展 2015

アメリカ全土を巡回して、日本に大きな被害を
もたらした「原爆の図」の展示が開催された。
この企画運営に携わった JKA 理事の小寺氏は、
「アメリカの人々の心に届くようスタッフが一
丸となって頑張っている」とコメントされてい
るとのことです。

同展は、Odyssey 本年 D.C. のアメリカン大学美術
館で 6/13 - 8/16 から始まり、ボストン大学ギャ
ラリーで 9/11 - 10/18、ニューヨーク パイオ
ニア・ワークスで 11/13 - 12/20 で幕を閉じま
す。同展では、広島、長崎の貴重な被爆資料や
遺品も展示されています。こちらにその模様を
伝える写真などがあります。

<http://www.ava.or.jp/~marukimnsn/kikaku/2015/2015america.html>

9. 子どもの権利研究

塚本さんが今年、ポーランドに行かれた時に、
現地で話題になっていたという本がありますの
で、ご紹介します。

Manfred Liebel “Janusz Korczak - Pionier der
Kinderrechte. Ein internationales
Symposium ”

著者のマンフリート・リーベルさんは、1940 年
生まれ、TU Berlin (ベルリン工科大学) の卒で、
専攻は社会学。学生時代、社会主義学生連盟と
い学生の政治活動団体の代表を務めていたこと
もあります。当初、ベルリンの教員養成所で社
会教育学を教え、その後母校の TU Berlin で教

授になりました。第三世界の国々での児童労働など、国際的なフィールドでの子どもの権利を研究テーマにしている、著作は多数あります。

2007年以降のものだけご紹介します。ドイツ語だけでなく、英語、フランス語、スペイン語の著書もあるのに気づかれるかと思います。ヨーロッパ、あるいはそれ以上のフィールドでの子ども研究も子どもの権利擁護などの団体の座長を務める経験も多く、既に大学は定年になっていますが、かなりの活躍をされている方ようです。



Kinder. Arbeit. Menschenwürde.

Internationale Beiträge zu den Rechten arbeitender Kinder (hgg. mit I. Nnaji & A. Wihstutz). Frankfurt/London: IKO, 2008;
Kinderrechte - aus Kindersicht. Wie Kinder weltweit zu ihrem Recht kommen. Münster/Berlin/Hamburg/London: LIT, 2009;

Infancia y Derechos Humanos. Hacia una ciudadanía participante y protagónica (hgg. mit M. Martínez Muñoz). Lima: Ifejant, 2009;
Sozialarbeit des Südens, Band 3: Kindheiten und Kinderrechte (hgg. mit R. Lutz). Oldenburg: Paulo Freire Verlag, 2010;

Enfants, Droits et Citoyenneté. Faire émerger la perspective des enfants sur leurs droits (unter Mitarbeit mit P. Robin & Iven Saadi). Paris : L' Harmattan, 2010;

Ciudadanía y Derechos de Participación de los Niños (mit L. Gaitán). Madrid: Editorial

Síntesis & Universidad Pontificia Comillas, 2011;

Children's Rights from Below: Cross-cultural perspectives (unter Mitarbeit von K. Hanson, I. Saadi & W. Vandenhole). Basingstoke: Palgrave Macmillan, 2012.

Kinder und Gerechtigkeit. Über Kinderrechte neu nachdenken. Weinheim/Basel: Beltz-Juventa, 2013.

Janusz Korczak - Pionier der Kinderrechte. Ein internationales Symposium (hrsg. im Namen des European Master in Childhood Studies and Children's Rights). Berlin/Münster: LIT, 2013.

今回参考にしたサイトは、こちらです。工科大学を定年になってから、自由ベルリン大学の方の研究センターの仕事に就いたりされているので、このプロフィールページは、自由ベルリン大学のものです。詳細なこれまでの軌跡はねドイツ語版のWikipediaにあります。

<http://www.ewi-psy.fu-berlin.de/en/einrichtungen/weitere/enmcr/mitarbeiter/mliebel/index.html>